

<医師用>

意 見 書		
保育所施設長 殿		
入所児童名 _____		
病名「 _____ 」		
年 月 日から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。		
年 月 日 _____		
医療機関 _____		
医 師 名 _____		印又はサイン _____

保育所は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人一人の子どもが一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。

感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での保育所生活が可能な状態となつてからの登園であるようご配慮ください。

○ 医師が記入した意見書が望ましい感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで（幼児（乳幼児）にあつては、3日を経過するまで）
風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発しん出現1～2日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヵ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認めるまで

子どもの感染症一覧表

(平成25年2月改正)

病名	病状の特徴及び経過	潜伏期	感染経路	登園基準	予防接種	その他注意事項
細菌性赤痢	発熱、腹痛、下痢などが急激に現れる	1～7日	経口感染 (感染者の便)	医師において感染のおそれがないと認めるまで		感染症予防法における三類感染症
インフルエンザ	発熱(38℃以上) 悪寒、頭痛、筋肉痛、倦怠感、咽頭痛、咳	1～4日 平均2日	飛沫感染 接触感染	発症した後5日を経過し かつ、解熱した後3日を経過するまで	○	肺炎、中耳炎等の合併症
百日咳	病初期よりしつこい咳 発熱はあまりない 連続性、発作性の特有の咳が続く	7～12日	飛沫感染 接触感染	特有の咳がとれるまで又は 5日間の適正な抗菌性 物質製剤による治療が終了するまで	◎	無呼吸発作、けいれん
麻疹 (はしか)	せき、眼やに、高熱、口中にコプリック斑 顔面に次ぎ身体、手足へ発疹	8～12日	飛沫感染 空気感染 接触感染	発疹に伴う発熱が解熱後 3日	◎	肺炎、中耳炎等の合併症
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺(耳たぶの下)が急に腫れる 痛みを伴い 酸っぱいものの飲食で増す	16～18日	飛沫感染 接触感染	耳下腺、顎下腺又は舌下腺 の腫脹が発現した後5日 を経過し、かつ、全身状態 が良好になるまで	○	無菌性髄膜炎、難聴等の合併症
風疹	発熱と同時にバラ色の発疹が出現し、約3日で 消える 頭部、耳後部のリンパ節腫脹	16～18日	飛沫感染 接触感染	発疹が消失するまで	◎	髄膜炎や紫斑病の合併症
水痘 (水ぼうそう)	身体と首から顔面に発疹 紅斑、水疱、膿疱、かさぶたの順に変化する	14～16日	空気感染 飛沫感染 接触感染	全発疹がかさぶたになる まで	○	
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱、咽頭痛、頭痛、食欲不振 眼症状として結膜充血、眼痛、眼脂	2～14日	飛沫感染 接触感染 プールでの目の 結膜からの感染 もある	主要症状が消退した後2 日まで		
結核	初期おもとんど自覚症状がなく気づきにくい 発熱、咳、疲れやすい、食欲不振	年齢、菌量、体 質等による	空気感染	医師において感染のおそれがないと認めるまで	◎	感染症予防法における二類感染症
腸管出血性大腸菌感染症 (O-157等)	症状のないものから、下痢(水様便～血便) 激しい腹痛等様々	3～8日	経口感染 (飲食物、便)	医師において感染のおそれがないと認めるまで		感染症予防法における三類感染症
流行性角結膜炎 (はやり目)	眼やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白 目に出血	5～12日	接触感染 (水、手指等)	医師において感染のおそれがないと認めるまで		眼脂、分泌物に触れない タオルなど共用しない 手洗い、励行
急性出血性結膜炎	眼やに、流涙、眼瞼が腫れる、結膜充血や白 目に出血	約1日	接触感染	医師において感染のおそれがないと認めるまで		
日本脳炎	急激な発熱、頭痛で発症 初期症状として吐き気、頭部硬直等	5～15日	コガタカイエカ		◎	
突発性発疹	突然の発熱が3～4日続く 熱が下がると同時に小斑点状発疹が出現	約10日	飛沫感染 経口感染 接触感染	解熱後1日以上経過し 全身状態がよいこと		生後6カ月～24カ 月の子が感染すること が多い
溶連菌感染症	(化膿)発熱、のどの発赤、腫れ、痛み 扁桃発熱、扁桃炎 莓状舌、発疹	2～5日	飛沫感染 接触感染	抗菌薬内服後24～48時間 を経過していること ただし治療の継続は必要		リウマチ熱、腎炎 の合併症
ウイルス性肝炎 (A型肝炎)	発熱、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、下痢、 おう吐、腹痛、3,4日後に黄だん	15～50日 (平均28日)	糞口感染 食品媒介感染	肝機能が正常になってから		
手足口病	発熱、口腔内の痛みを伴う水疱 手、足脚部の水疱性丘疹	3～6日	飛沫感染 糞口感染(経口) 接触感染	発熱がなく(解熱後1日 以上経過し) 普段の食事が できること 流行阻止を狙っての当園 停止はウイルスの排出期 間も長く現実的でない		髄膜炎の合併症 回復後も2から4週 間、便にウイルスが排 泄される
ヘルパンギーナ	発熱、のどの痛み、まれに頭痛、筋肉痛、発 疹	3～6日	飛沫感染 糞口感染 接触感染	発熱がなく(解熱後1日 以上経過し) 普段の食事が できること		
伝染性紅斑 (りんご病)	かぜ様症状と顔面の紅斑、四肢伸側にレース 状の紅斑	4～14日	飛沫感染	発熱がなくなり、すでに 感染力は消失しているの で、全身症状が強いこと		溶血性貧血や紫斑 病の合併症
マイコプラズマ肺炎	ゆっくり始まるかぜ様症状、しつこい乾咳、 発熱、胸痛	2～3週	飛沫感染	発熱や激しい咳が治まっ ていること		
感染性胃腸炎 (流行性嘔吐下痢症)	嘔吐、下痢が突然はじまる	ロタ1～3日 ノロ12時 ～48時間	糞口感染 食品媒体感染 接触感染 吐物からの空気感染	嘔吐、下痢等症状が治まり 普段の食事ができること		脱水症状に脱注意
伝染性膿痂疹 (とびひ)	紅斑、水疱、びらん、皮が厚いかさぶた	2～10日 (長期の場合 もある)	接触感染 かさぶたでも感染	皮疹が乾燥しているか湿 潤部位が被覆できる程 度のものであること		
RSウイルス感染症	発熱、鼻汁、咳、喘鳴、呼吸困難	4～6日	接触感染 飛沫感染	重篤な呼吸器症状が消失 し全身状態がよいこと		生後6ヵ月未満の児 は重篤化しやすい

「学校保健安全法」、「感染症予防法」及び「保育所における感染症ガイドライン」より、抜粋

注1. 感染する期間は学校保健安全法における出席停止期間に準じる。医師の診断により登園しても差し支えないときはこの限りではない。

注2. 予防接種 ◎予防接種法に基づく接種 ○任意接種

保護者の皆さまへ

病気回復期の保育園・幼稚園への登園の目安

(ただし、インフルエンザや水痘等、登園基準が決まっている病気はこの目安には該当しません。)

登園の目安は子どもの健康回復と他の子どもへの感染の可能性を考えて決められています。健康回復が不十分な状態で登園しますと病気の回復が遅れたり新たな感染症にかかりやすくなります。また感染力が強い段階で登園すれば他の子どもへの感染を引き起こすことになります。

発熱、咳、鼻水・鼻づまり、下痢などで休んでいた後の登園の目安を以下に記載しますのでご理解をお願いします。

また、主治医の診察を受けた場合は、主治医の指示に従ってください。

1. 発熱

登園の目安：登園前夜から当日の朝まで解熱剤を使用せずに解熱していること

理由：前日の夕方から夜にかけて38℃以上の発熱が認められた場合、あるいは解熱剤を使用して解熱した場合は、翌朝解熱していても在園中に再度発熱する可能性が高いためです。

※ 在園中に38℃以上の発熱又は37℃台の熱でも状態によりお迎えを要請することがあります。

2. 咳、鼻水・鼻づまり

登園の目安：登園前夜は、咳や鼻水は存在しても十分に眠れていること

理由：咳や鼻水・鼻づまりで夜間に起きたりする場合は、子どもの体力が回復できないと考えられます。また他の子どもへの感染力も強いと考えられるためです。

※ 在園中に咳や鼻水で生活に支障を来す場合はお迎えを要請することがあります。

3. 下痢

登園の目安：前日から当日朝までの24時間に、元気で食欲があり、軽度の下痢が3回以内であること

理由：下痢の多くはウイルス感染でおこります。また発病後1週間以上にわたり便中にウイルスを排泄しますし、ごく少量のウイルスでも感染しますので原則としては下痢をしている期間は登園を控えてもらいます。ただ在園中に軽度の下痢が1～2回であれば、保育士が慎重に対処します。

※ 在園中に大量の下痢・水溶の下痢・少量でも2～3回以上の下痢が出現すればお迎えを要請することがあります。

4. 食欲

登園の目安：登園当日の朝は食欲が回復していること

理由：食欲がない場合は、健康の回復が不十分と考えられるためです。

※ 在園中に食欲がなく体調不良と思われる場合はお迎えを要請することがあります。